

事業名	水産資源調査・評価推進委託事業(漁船活用型調査)
予算区分	受託研究費
事業実施期間	令和6年(継続実施)
担当者	木本翔、住友寿明、石川陽子
共同研究機関等	水産資源調査・評価推進委託事業共同実施機関

〈目的〉

国連海洋法条約の発効に伴い、我が国周辺水域内の水産資源の有効利用及び管理を行うために必要な情報を収集することを目的とし、水産資源調査・評価推進委託事業の一環として、操業日誌の記帳を依頼し、操業海域における漁獲量やいわし類の混獲状況等について調査した。

〈方法〉

船びき網11統（長原漁協1統、徳島市漁協1統、和田島漁協6統、橘町漁協1統、阿南漁協2統）の標本船日誌調査を実施し、しらす類（いわし類幼魚）及びいわし類（いわし類成魚）の漁獲量及び操業場所等を調査した。

〈結果〉

しらす類の漁獲量を図1に示した。1～4月の漁獲は低調であったが、5月以降の漁獲は増加傾向にあり、8月に漁獲のピークが見られた。9月以降の漁獲は減少傾向にあり、10～12月の漁獲は低調であった。カタクチシラスが漁獲の大部分を占めるが、1、4、6月にはウルメシラスが、5～6月にはマシラスが混獲された。

いわし類の漁獲量を図2に示した。例年、1～7月及び12月に漁獲があるが、今年は12月の漁獲は見られなかった。カタクチイワシが漁獲の大部分を占めるが、6月にはマイワシが混獲された。

しらす類の操業海域ごとの1日あたりのCPUEを図3に、いわし類の操業海域ごとの1日あたりのCPUEを図4に示した。しらす類では、徳島県海域の全域で漁獲があったが、いわし類では、沿岸域の一部でのみ漁獲があった。

〈今後の課題〉

特になし。

〈次年度の計画〉

継続する。

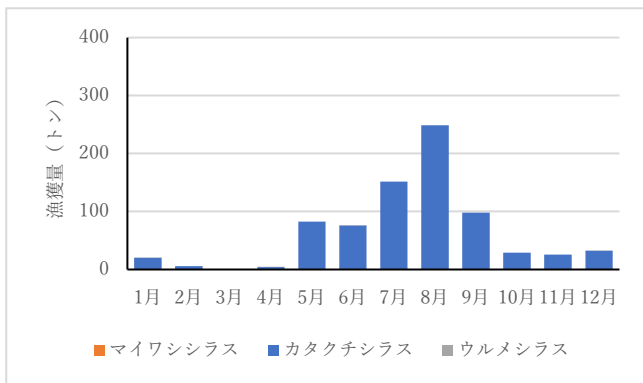


図1 しらす類の漁獲量

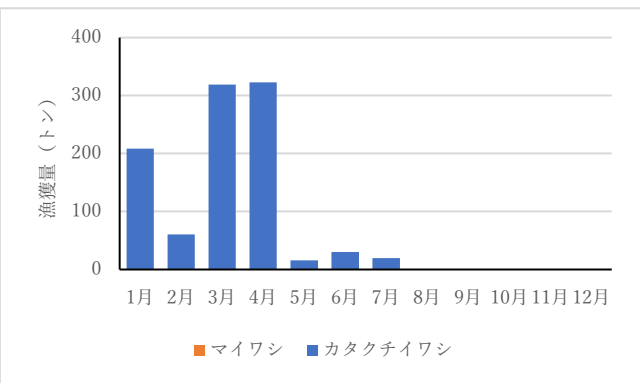


図2 いわし類の漁獲量

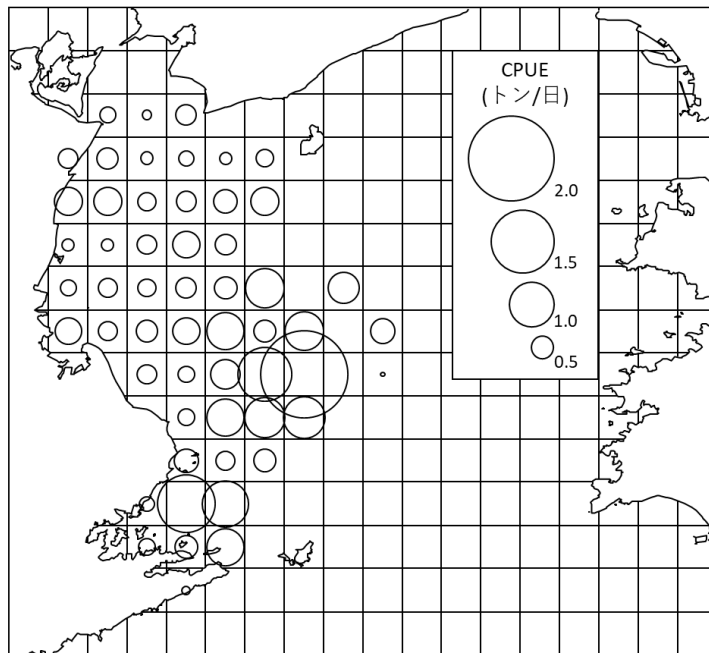


図3 しらす類の操業海域における CPUE

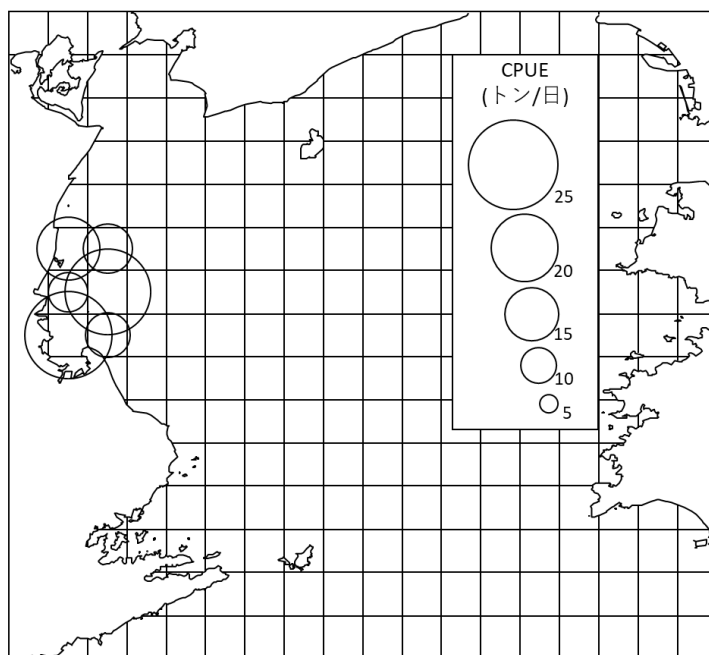


図4 いわし類の操業海域における CPUE